

奉公人の使う建物

識名園では、奉公人が使うための空間でさえ美しく、巧みに設計されていました。通用門は、正門に似た形をしており、非常に優美ですが、装飾は小さくより簡素です。通用門は、庭園で働く人たちのための出入口でした。コンパクトな番屋は、役割を果たすため正門と御殿の近くに配置されています。番屋は、伝統的な琉球の建築様式を用いて建てられた御殿の番人のための小さく機能的な住居です。建物の入り口に最も近い手前の部屋は詰所で、奥の部屋は住居部分になっており、木の戸で閉じられた長い板張りの廊下があります。隣には瓦屋根の小さな離れが建てられています。御殿の入り口のすぐそばには駕籠屋があります。王族や他の位の高い人々は、人が肩に担いで運ぶ乗り物「駕籠」を威厳のある移動手段として使用していました。通常彼らは御殿の出入口まで運ばれていたため、足を地面に触れさせずとも石の上り段に降りることができました。駕籠屋は、駕籠を準備するための場所として、また、担ぎ手の休憩所として使用されました。